



◀市長の言葉に感謝し、握手する梶原さん

100歳のご長寿を祝い状や花束で祝福

市長がお祝いの表敬訪問

敬老の日を前に9月11日、横尾市長が100歳の市民3人に花束や祝い金などを贈り、長寿を祝いました。

北多久町の梶原コマツさんは、明治43年生まれ。フライドチキンやうなぎなどが好物で、日課で聴いているラジオから流れていた「千の風になって」が好きになり、歌詞も覚えて歌うほどお気に入りです。市長が「益々、お元気で。おめでとうございます」と祝い状や花束を手渡すと「もったいないほど嬉しい」と涙ぐみ、家族が暮らしぶりを披露すると、「みんながよくしてくれ、心配事もなく幸せ」と、感謝の気持ちいっぱい。よく食べ、よく眠り、大好きなお話をするのが、長生きの秘訣のようです。

このほか市では、9月15日で100歳以上の11人と米寿(88歳)を迎えられた127人も敬老祝い金を贈呈。健やかな長寿を祝福しました。

英語力アップに中学生とALTが楽しく交流

イングリッシュサマーフェスタ

市内の中学生とALTらが英語で交流する『イングリッシュサマーフェスタ』が8月26日、南多久公民館でありました。

「楽しみながら英語に触れ、自分の英語が通じる喜びをひとりでも多くに体感してほしい」と、多久市中学校英語教育研究会が夏休みを活用して開いているもので、49人が参加。小中学校でALTを務めるロス先生とペニー先生や5人の外国語指導者を中心となって進行し、英語教諭もサポートしています。

アメリカのテレビ番組の“ジャパディ”や“アメイジンググレイス”というクイズや昼食づくりなどを楽しみました。

調理のメニューは、メキシコ料理の定番『ガカモレ』『タコス』『サルサ』や、オーストラリア伝統のお菓子『ラミントン』など9種類。英和辞書を開き、材料や作り方を解説し、作業に悪戦苦闘しながらも、おいしいできあがりみんな満足。1日を通した英語や友とのふれあいで、コミュニケーション力を高めていました。



▲「おいしい！」とタコスはかわりすぎるほど人気

8/16 女山大根アイスが一村逸品大賞前期優秀賞に輝く

多久市ふるさと情報館『幡船の里』が開発し、販売している女山大根アイス「乙女のこころ」が、日本農業新聞が選定する一村逸品大賞の前期優秀賞に表彰されました。紙面や農netに掲載している全国各地の特産加工品の中から「アイデアあふれた個性的な加工品で滋味も秀でている」と評価。船津忠伸代表は「認められて嬉しい。今後もおいしいものをみなさんに提供したい」と特色ある店づくりや品づくりに意欲的です。



8/2 ~ 8/8 日本ジャンボリーで全国の仲間と集う

「ボーイスカウト多久第1団」に所属している4人が静岡県朝霧高原で行われた第15回日本ジャンボリーに参加。4年に1度の大会で、全国から2万人が集い、8泊9日のキャンプ生活をしながら、様々な活動を通して知識や技能を取得しました。日頃のボーイスカウト活動の集大成として参加した中央中の久我さん、早川さん、米倉さん、待永さんは、「友達がたくさん増え、自分のためになった」と語り、今後続く団員の参加を呼びかけていました。

